

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月1日  
令和7年2月号

## 県産農林水産物の重点プロモーション（さつまいも）について

千葉県農林水産部販売輸出戦略課  
ブランディング推進室 副主査 大石 祐介

全国有数のさつまいもの産地である千葉県では、「<sup>ルージュ</sup>紅のご褒美」をキャッチコピーに、ご褒美スイーツのような新しいイメージの普及と認知度向上を目指し、集中プロモーションを行っています。

### 1. 事業の背景

県では、県内外の消費者に向けて、県産農林水産物の魅力を一層発信するため、千葉県の顔となる品目（重点品目）を核とした集中プロモーション等を行い、消費者に選ばれるおいしい千葉の農林水産物としてのイメージアップに取り組んでいます。

重点品目は、千葉県が代表的産地であることや、質にこだわった生産をしていること、特徴的な歴史的背景を有することなどを総合的に勘案して選定しており、さつまいもは、その品目のひとつとしています。



### 2. 県さつまいものプロモーション

千葉のさつまいもには、青木昆陽が江戸時代に試験栽培を成功させたことに始まる歴史的なゆかり、蓄積されてきた栽培技術や産地の品質向上に関するこだわり、さらに、主要品種のひとつである「べにはるか」に「30日以上貯蔵ルール」を定め、甘さを十分に引き出してから出荷しているといった特徴があります。このような特徴を背景に、30代～40代の女性を主なターゲットとして、「<sup>ルージュ</sup>紅のご褒美」※をキャッチコピーに、ご褒美スイーツのような新しいイメージによるプロモーションに取り組んでいます。

※「<sup>ルージュ</sup>紅のご褒美」

さつまいもの鮮やかな紅色と、甘さやおいしさを想起させるワードを組み合わせ、県産さつまいもの新しいイメージを表現したキャッチコピー。

具体的な取組としては、昨年度から、幼少期を流山市で過ごすなど本県とゆかりのある、俳優の松本まりか氏に「千葉のさつまいもアンバサダー」に就任いただいております。知事との対談、生産者や貯蔵の様子を実際に見ていただく産地訪問 PR 動画への出演、ポスター等への起用に加え、令和7年1月16日には、メディア向けイベントに登壇いただき、当日の様子が400を超えるWebメディアやTV等で取り上げられるなど、千葉のさつまいもの魅力を発信しています。

また、今年度は、新しいイメージの普及に向けて、スイーツ商品等を取り扱う販売店やホテル等と連携し、2～3月を集中的なプロモーション期間として、ポスターやPOPの展開による県産さつまいもの商品（焼き芋やスイーツ）と「<sup>ルージュ</sup>紅のご褒美」「千葉のさつまいもアンバサダー・松本まりか」のイメージを連動させたプロモーションに取り組んでいます。

今後も、産地や販売店等と連携し、「ご褒美スイーツ」のようなさつまいもの新しいイメージの普及と甘くておいしい千葉のさつまいもの認知度向上を図っていきます。



PR動画や千葉のさつまいもを使った  
スイーツ情報は特設サイトで紹介しています。





## JAグループ千葉「食の安全・安心」産地づくりの取組について

全国農業協同組合連合会千葉県本部  
営農支援部 営農支援課 根本 和俊

近年食品に関する事故が相次ぐ中、消費者の国産農産物への「安全・安心」に対する関心はますます高まっています。その期待に応えるためにも生産現場における安全性確保は最優先課題です。JAグループ千葉として実施している取組について紹介します。

### ○食の安全・安心に向けた取組み

#### 農薬リスク対策と農産物の信頼向上

食品の安全と安心は、消費者の健康を守る上で最重要課題です。中でも農薬残留基準値の超過は、多くの農産物に共通するリスクであり、徹底した対策が求められています。農薬の誤使用、ドリフト（農薬飛散）、散布器具の洗浄不足が原因となる事故が発生しており、これらへの対応が重要です。

#### 農薬リスクの軽減策

農薬の誤使用を防ぐには、使用前に最新の登録内容を確認することが不可欠です。使い慣れた農薬であっても、登録内容が変更される可能性があるため、常に最新情報を確認する必要があります。また、直売所向けのマイナー作物が増加している中、栽培作物が農薬登録上どの分類に該当するのかを正確に把握することも大切です。

さらに、散布器具の洗浄不足も大きなリスク要因です。タンク底やホース内部、ストレーナ部分は農薬が残留しやすいため、これらを丁寧に洗浄・点検し、散布作業後には洗浄を習慣化することでリスクを軽減できます。

#### 生産履歴の精度向上

農産物の生産履歴の正確な記録も、安全確保に欠かせません。生産履歴は、農産物が「誰が」「どこで」「どのように」生産されたかを示すもので、ほ場ごとの管理を基本とします。特に薬剤の使用履歴については、出荷前に確認・点検を行うことでミスを防ぎ、問題が発生した場合にも迅速な対応が可能です。

### 残留農薬自主検査

JAグループ千葉では独自の分析成分リストを作成し、外部機関に委託して多品目の農産物について残留農薬検査を実施しています。この検査は出荷前に作物をサンプリングし、安全性を確認した上で出荷する仕組みを整えています。2023年には1年間で422検体の分析を行い、厳格な検査体制によって農産物の安全性を確保しました。

### JA全農ちばの取組

JA全農ちばでは、農薬リスク対策以外にも食の安全・安心に向けた幅広い活動を展開しています。

「もっと安心農産物」生産・販売運動では、農薬や化学肥料の使用削減を推進し、環境にも配慮した農産物の生産・販売を目指しています。また、栽培履歴の記録や検査結果の公開を通じて透明性を高め、消費者の信頼を得ることに努めています。

さらに、生産者と消費者の交流促進をしています。営農技術センターを会場とした「親子農業体験教室」の開催や学校、地域を対象とした食育活動を行うことで食の安全や農業への理解を深める取組を行っています。

### ○おわりに

食の安全・安心に向けた取組に「これで十分」という終わりはありません。各生産者や産地が知恵を絞り、最善策を講じることが大切です。そして何より重要なのは、千葉で収穫された農産物を購入する消費者を常に意識し、生産や販売に取り組むことです。こうした努力の積み重ねによって消費者の信頼を生み、千葉県農業の発展やブランド力の向上、地域の活性化につながっていくと思います。



## 災害時に経営を持続するために～BCPをご存知ですか～

千葉県農林水産部生産振興課  
園芸振興室 技師 佐藤 友音

近年、自然災害の激甚化・頻発化が進んでいる中で、想定外の災害等が発生した場合でも農業経営を継続・復旧できるよう、「農業者が被災後、早期に営農を再開するために必要な取組などをまとめた」BCP（事業継続対策）の策定が重要です。

### 1. 近年の自然災害の状況

農業は自然災害等の影響を受けやすく、特に本県においては、令和元年に発生した房総半島台風等の災害で、過去に類を見ないほどの大きな被害を受けました。また近年、線状降水帯の発生による短時間の集中的な大雨など、自然災害が激甚化・頻発化しています。このような中、自然災害等の緊急事態が発生した場合でも、営農が継続できるよう、リスクに対して備えることが重要です。

### 2. BCP（事業継続計画）について

#### (1) BCPとは

BCPとは、自然災害等による損害を最小限に抑えつつ、中核事業の継続や早期復旧を図るため、普段から実施すべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段等をあらかじめ取り決めておく計画のことで、「農業者が被災後、早期に営農を再開するために必要な取組などをまとめたもの」が農業版BCPです。

BCPの作成により、農業者が被災した際に、被害を最小限に抑え、実際の緊急時において円滑な事業復旧や継続が可能となります。

#### (2) 日常の災害対策からBCPを検討する

BCPは決して難しいものではなく、皆さんが普段から行っている災害対策の延長線上にあり、これまでの取組を事前に計画として落とし込むことがBCP作成の第一歩となります。

例えば、施設栽培では、平時に行っているビニールハウスの隙間や損傷部分の点検、台風直前には出入口の施錠、換気扇によるハウス内圧の調整等の対策から一歩進み、被災直後は施工業者の対応や部材が不足することを想定し、ハウスの修理に必要な器具や資材を事前に確保しておけば、実際に被災した際にも早期に営農を再開することができます。

被災して営農再開するためには「何ができて、何ができないのか」、現状把握することから始め、少しずつ改善・見直しを進めることがポイントです。

### 3. 災害に強い園芸産地づくりに向けた取組

#### (1) 自力施工研修会の開催

県では、農業者による営農再開の取組の一つとして、全農千葉県本部と連携し、「園芸用パイプハウスの自力施工に係る研修会」を6月、11月に開催し、自力施工の手法やポイントの説明や実際にハウスの組み立てを行いました。延べ117名の参加があり、参加者からは、「参考になった」、「ビニールの張り方も教わりたい」など、自力施工への関心の高さを感じました。



#### (2) 産地BCPの策定推進

農業分野におけるBCPには、個々の農業者が策定する「農業版BCP」に加えて、生産品目や地域が同じである等、一定のまとまりをもつ複数の農業者と関係機関が構成員となって策定する「産地BCP」の2種類があります。

産地を構成する関係者同士の協力体制や対応事項を定める「産地BCP」の策定は、産地全体の被害軽減につながり、生産・出荷を維持するために重要です。

県では、産地BCPの策定を推進するため、今年2月に研修会を予定しています。

農業版BCPをもっと知りたい方はこちら(農水省HP)：

[https://www.maff.go.jp/j/keiei/maff\\_bcp.html](https://www.maff.go.jp/j/keiei/maff_bcp.html)



産地BCPをもっと知りたい方はこちら(農水省HP)：  
[https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/saigai\\_taisaku.html#sanchiBCP](https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/saigai_taisaku.html#sanchiBCP)





# 千葉県における「食育」の取組について ～キャッチフレーズは「ちばの恵みで まんてん笑顔」～

千葉県農林水産部環境農業推進課  
食育推進班 主事 楠神 侑貴

県民一人ひとりが主役となり、おいしい「ちばの恵み」をバランス良く食べて、健康で笑顔あふれる暮らしを実現することを目指し、「ちば食育ボランティア」、「ちば食育サポート企業」をはじめ農林漁業関係者、教育関係者等と連携・協力し、地域の特性を生かした食育活動を推進しています。

## 1. 第4次千葉県食育推進計画の施策展開

県では、令和4年3月に第4次千葉県食育推進計画を策定し、『ちばの恵み』を取り入れたバランスのよい食生活の実践による生涯健康で心豊かな人づくり』を基本目標とし、「ライフステージに対応した食育の推進」、「生産から消費まで食のつながりを意識した食育の推進」、「ちばの食育を進める環境づくり」の3つの施策のもとに、市町村、関係機関、ちば食育ボランティア、サポート企業と連携し、展開しています。



出典:「グー・パー食生活ガイドブック(概要版)」

グー・パー食生活はじめよう!  
(YouTube)

## 2. 「グー・パー食生活」の普及・啓発

鮮度が良く栄養たっぷりでおいしい千葉県産の農林水産物を、上手に取り入れたバランスのよい食生活を『ちば型食生活』と呼びます。それを実践するためのスタイルである『グー・パー食生活』の普及・啓発を推進しています。

国が定めた6月と県産農林水産物が豊富に出回る11月を食育月間とし、県内各地において食育推進運動を展開し、啓発資料を配布することにより、食育関係者による主体的な取組を促し、一体的かつ集中的に普及啓発に取り組んでいます。

加えて今年度は、子供たちの食育に対する興味関心の喚起、理解醸成を図るため、11月27日に、佐倉市の保育園と小学校において、食育啓発動画「グー・パー食生活はじめよう!」を活用したダンスイベントを実施しました。



ダンスイベントの様子

## 3. 子供たちへの食育推進

農業・農村の役割や「ちば」の食材・食文化等に対する、子供たちの理解醸成と、地産地消を一層図るため、12月25日に、千葉県、千葉県教育委員会、JAグループ千葉の三者による連携協定を締結しました。

この協定では、農業・農村の役割や「ちば」の食材・食文化等に対する子供たちの理解醸成のほか、農業体験活動の推進や学校給食における地場産物の活用促進などを連携・協力事項としています。

三者がこれまで以上に連携して食育を推進することで、子供たちの食への感謝の気持ちや理解がより深まるとともに、県内の多くの学校給食で地場産物が活用されることで、食材を提供している地域農業の生産の安定化や意欲向上にも繋がるものと考えています。



連携協定締結の様子



## 夏の花壇を彩るジニア優良品種の選定 (第69回全日本花卉品種審査会)

千葉県農林総合研究センター  
花植木研究室 上席研究員 中島 拓

第69回全日本花卉品種審査会で、夏の植栽に適したジニアの品種選定を行いました。「ベリーズ ディープローズ」などの3品種は高温や大雨の環境下でも生育が衰えずに花が咲き続け、病気の発生も少ない優良品種です。

### 1. はじめに

ジニアは初夏から秋にかけて連続して花が咲き続け、「100日間花が咲き続ける」印象から、百日草(ヒャクニチソウ)とも呼ばれています。

以前から夏花壇向けの品目として知られていましたが、近年は様々な花色の品種が流通しています。一方で、風雨による枝の折れや、病気の発生も多く、草姿や耐病性の改良が求められています。

そこで、種苗会社の新品種もしくは育成中の系統の中から夏の植栽に適したものを選定することを目的に、第69回全日本花卉品種審査会((社)日本種苗協会主催)が当センター(千葉市緑区)で開催されたので、その結果を紹介します。

### 2. 耕種概要

審査は種苗会社3社から出品された11品種・系統を対象に行われました。各社から出品された3号もしくは3.5号ポット苗を露地ほ場に定植し、表の条件で栽培しました。

表 試験区の耕種概要

定植日: 令和5年5月10日
栽植規模: 1区24株、2反復
栽植様式: 畝幅; 1.2m、区幅; 1.8m 1株当たり30cm角、4条植え
施肥: 基肥; 被覆複合ハイコントロール オール10-100 (10-10-10) を15kg/10a
追肥; なし
管理方法: かん水は散水チューブで適宜行い、補植は行わなかった。 花殻の除去を6月22日及び7月11日に実施した。
薬剤散布: 殺虫・殺菌剤を農薬使用基準に従って適宜散布した。

栽培期間中の日平均気温は平年値より3℃以上高い日も多く、期間を通して高めに推移しました。また、降水量は全体的には平年より少なかったものの、6月と7月に30mm/日以上の大雨となる日が数回ありました。

これらのことから、近年みられる猛暑と短時間強雨が発生する栽培環境での比較となりました。

### 3. 審査内容・結果

令和5年7月24日に国や県の研究機関、種苗会社等の専門家で構成された審査委員10名により、ほ場での生育の揃い、花の美しさ、花数、病害の発生等を評価しました。

審査の結果、1等は「ベリーズ ディープローズ」(タキイ種苗(株))、2等は「プロフェュージョン レッドイエローバイカラー」((株)サカタのタネ)、3等は「TZ-1068」(タキイ種苗(株))となりました(写真)。



写真 入賞品種の草姿(令和5年7月26日撮影)  
上段左:「ベリーズ ディープローズ」  
上段右:「プロフェュージョンレッドイエローバイカラー」  
下段:「TZ-1068」

入賞した3品種はいずれも病害の発生はなく、耐病性の高さが伺えました。

また、草姿は植栽面を全面に覆うもの(写真上段左・右)や、コンパクトな状態を維持する寄せ植え向きのもの(写真下段)がありましたが、いずれも高温による生育停滞や風雨による枝の折れ等は発生せず、夏花壇に向く品種であると言えました。

### 4. おわりに

消費者に加え、緑化関係者からも不良環境耐性の高い品種が求められています。今回の審査結果を参考に、消費者や実需者から支持される品種を生産していただき、夏花の評価が高まることを期待します。



## 千葉県いちご組合連合会が行った販売促進活動

公益社団法人千葉県園芸協会 産地振興部

生産量が増加していく1月に、千葉県いちご組合連合会（以下いちご連）は、報道メディアを訪問し、千葉のいちごが旬を迎えることや、その美味しさを消費者に知っていただくための販売促進活動を行いました。

### ○株式会社ベイエフエム

人気生放送ワイドプログラム「miracle!!」にて、佐藤由季アナウンサーからいちご連役員がインタビューを受け、その様子が生放送されました。

インタビューでは、これから千葉のいちごが旬の時期を迎え、近場のスーパーや県内に多くある観光いちご園で購入することができることをPRしました。また、いちご連副会長が生産した「とちおとめ」の試食の際には、「粒が大きく、果汁たっぷりで甘い！」と千葉のいちごを絶賛していただきました。



生放送時の様子

### ○株式会社千葉日報社

いちご連役員が訪問した際の取材を基に、秋から冬にかけて気温が高く苦勞したことや、各農園が美味しいいちごを届けようと努力していること等について、1月15日付けの新聞記事にいただきました。

### ○千葉テレビ放送株式会社

夕方と夜のニュース番組「newsチバ」では、千葉テレビを訪問した際の様子や、「千葉県フラワーフェスティバル」で行ういちご販売の事前告知等を放送していただきました。朝の報道番組「モーニングこんぼす」では、アナウンサーに試食いただくとともに、視聴者10名の方にプレゼントを行い、千葉のいちごを消費者にアピールしました。



## 第45回千葉県フラワーフェスティバル花き共進会結果報告

千葉県農林水産部生産振興課 園芸振興室

令和7年1月17日に行われた第45回フラワーフェスティバル花き共進会の審査結果は次のとおりです。

○出品点数 323点（鉢花 62点、観葉 20点、洋らん 50点、切花1部 111点、切花2部 80点）

○入賞 80点（特別賞 31点、金賞 49点）

### ○主な特別賞受賞者

賞名	品目	受賞者	市町村
農林水産大臣賞	スターチス	柴山 明彦	南房総市
千葉県知事賞	ファレノプシス	(有)椎名洋ラン園	旭市
千葉県議会議長賞	カーネーション	岩田 秀一	南房総市
農林水産省農産局長賞	シクラメン	宮崎 勇樹	旭市
農林水産省関東農政局長賞	フィカス	高橋 繁之	九十九里町
(公社)千葉県園芸協会会長賞	モンステラ	古川 浩信	山武市
NHK千葉放送局長賞	エラチオール・ペゴニア	平野 晃久	旭市
千葉県農業協同組合中央会長賞	カラー	長田 英二	君津市
千葉県農林総合研究センター長賞	ファレノプシス	加藤 英世	南房総市
全国農業協同組合連合会千葉県本部長	ストック	桜井 一行	館山市
千葉県花き園芸組合連合会長賞	リュウココリーネ	伊能 秀子	芝山町



農林水産大臣賞 スターチス

花束やアレンジ、ドライフラワーなど多用途に使われます。個々の花にもボリュームがあり、バランスの良い草姿に目を引かれます。春の訪れを予感させるレモンイエローの発色も柔らかく、美しく仕上がっています。